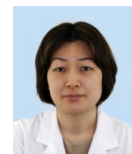


地域医療連携室ニュース

公立阿伎留医療センターは、医の心を重んじ、患者の生命と健康と生活の質を考える良質の医療を実践し、地域医療の最適化に努力します。

発行 地域医療連携室
 電話 042-558-0321(代表)
 FAX 042-550-5190(直通)

『ご挨拶』と『当院の緩和医療について』緩和ケア科 森 尚子



<ご挨拶>

2015年4月に緩和ケア科の常勤医となりました。名古屋市立大学の小児科出身で、専門は小児の悪性腫瘍・緩和医療ですが、3年前より成人のがん患者さんの診療にも従事させて頂いております。今後、年齢を問わず、つらさを抱える患者さんとご家族が少しでも自分らしさを取り戻し、最後まで納得のいく人生を生きることができるよう、多職種で力を合わせ、頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<当院・緩和ケア病棟のコンセプトと医療の内容>

阿伎留医療センターの緩和ケア病棟は、院内併設型である利点を生かし、院内他科のスタッフと協働して、QOLを向上させるための積極的な支持治療を提供しております。以下にその例を記します。

① 痛みの緩和

中等度以上の痛みの除痛率は90%以上を達成しています。経口での薬の服用が難しくなった患者さんには、テルモの小型シリンジポンプ(図1)を用いた持続皮下注や、スミスメディカルのCADDポンプ(図2)を用いた持続静注により、坐薬よりも不快感の少ない疼痛緩和を行っています。



図1



図2

② 嘔気・嘔吐の緩和

一般的な制吐剤に加えて、難治性の嘔気・嘔吐には、オランザピン（ジプレキサ®）などの抗精神病薬の使用も検討し、できる限り嘔気を軽減できるよう努めています。

③ 呼吸苦の緩和

フェントステープ®やオキシコンチン®は、呼吸苦の緩和に有効ではないため、できるだけ早い段階で、モルヒネに対する誤解を解き、時期を逸することなくモルヒネを導入できるよう、緩和担当の薬剤師と協力して、患者さん・ご家族に説明しています。

④ 腸閉塞時のケア

水分管理とステロイド薬、症例により酢酸オクトレオチド（サンドスタチン®）を使用し、できる限りチューブ留置を避けています。どうしても嘔吐がひどくチューブを留置しなければならない場合も、イレウス管や太い胃チューブは避け、12~14fr のチューブを、穴を眼科用剪刀で切り広げ、閉塞予防の処置を施してから留置しています。これにより、便汁様の嘔吐でも詰まらずに使用できます。

⑤ 不眠・うつ状態・せん妄に対するケア

当院には精神科医がいないため、重度の精神障害を抱える患者さんの治療は困難ですが、不眠・せん妄に関しては、環境調整や症状緩和を積極的に行っています。心理士の配置は今後の課題です。

⑥ 栄養・リハビリ

新規入院の患者さん全員に、栄養科のスタッフが個別面接を行い、できる限り食の楽しみが持てるようなメニューを工夫しています。経口摂取が困難な患者さんでも、予後が1か月以上あると考えられ、栄養サポートによりQOLの改善が見込める場合には、ご希望があれば外科にてCVポートを設置し、高カロリー輸液を行い、在宅退院を目指すことも可能です。並行して、ADLの維持・改善のためのリハビリも、無理のない範囲で行っています。

⑦ ご家族のケア

当院の緩和ケア病棟16床は、全て個室で、ご家族の付き添いが可能です。患者さん本人だけでなく、配偶者やごきょうだい、ご両親、お子さんへも病状説明を積極的に行うとともに、ご家族ができるだけ安心して患者さんの傍にいられるよう、日常の生活の中で、お互いに語り合う時間を大切にしています。

<最後に>

これからの時代、ますます在宅で闘病されるがん患者さんは増えると思われます。その中で、在宅では和らげることが難しい苦痛を抱えた患者さんを、緩和ケア病棟で引き受け、症状が落ち着いたら再び在宅へ戻るという連携を、積極的に行っていかなければ、地域に住む人々を支えきれなくなると思います。その意味で、緩和ケア病棟は、『ゆっくりと療養する病棟（療養病棟）』ではなく、『つらさを和らげるための、‘緩和医療における急性期病棟’（Intensive Palliative Care Unit: I-PCU）』になるべきです。そのため、阿伎留医療センターの緩和ケア病棟は、つらい症状があまりなく安定した患者さんの入院は長期待機とさせて頂いており、現在つらい症状がある方に優先的に入院させて頂いております。今後とも、密な医療連携をどうぞよろしくお願いいたします。

<地域医療連携室より>

緩和ケア病棟入院にあたっては、① 地域医療連携室（MSW）へご相談

② 医師との面談（月曜日、金曜日の午後・予約制）



③ 判定会議（火曜日）

を経て、入院日の決定、または入院長期待機とさせていただきます。

※ 紹介元からの診療情報提供書（紹介状）を面談日の3日前までに Fax をお願いします。（月曜日面談の方は、前週の金曜日午前中まで）

※ 画像（CD-R）も可能な限り事前に郵送をお願いいたします。

※ 情報シートを併せてご用意願います。当院ホームページ中の「診療科のご案内」⇒「緩和ケア科」からダウンロードしていただき、記入をお願いします。

※ 当日は面談料として、5,000円（消費税別）を頂戴いたします。



《産科外来再開のお知らせ》

企業長 荒川 泰行

当院では、平成25年3月に産婦人科医師と助産師の退職が重なる等の事情により同年6月より産科業務全般を休止し、婦人科診療のみを行ってきました。これまでの間地域の先生方には、ご迷惑をおかけしましたが、本年2月に医師、助産師を採用し、まず「妊婦健診」と「母乳外来」を再開しました。そして、この10月より、「分娩業務」を一部再開できることになりました。産科診療では、分娩時や妊娠中に様々な事象が起きる可能性がありますので、今後も引き続き産婦人科医師と助産師の確保に努めてまいります。
なお、外来担当医は以下の通りです。

月	火	水	木	金
大山俊雄	大山俊雄	吉村 理	大山俊雄	吉村 理
井上千賀子	井上千賀子	大沼一也	井上千賀子	工藤一弥 10/2・10/16 午後

《乳腺外科について》

常勤医師増員に伴い、本年9月より外来日を月曜日から金曜日まで拡大しました。なお、乳腺外科は患者さんからの直接のお電話で初診予約が取れますので、紹介状をお渡しする際に、その旨お伝えください。

なお、外来担当医は以下の通りです。(金曜日の午前診療は11時まで、第1金曜日は休診です。)3名の医師とも日本乳癌学会専門医または認定医、がん治療認定医、検診マンモグラフィー読影認定医です。

	月	火	水	木	金
9時～11時30	長島沙樹	平野智寛	長島沙樹	長島沙樹	松尾定憲
14時～16時	平野智寛	平野智寛		長島沙樹	松尾定憲

《医師の入退職について (9月・10月分)》

入職 9/1 付

乳腺外科 常勤 長島 沙樹

入職 10/1 付

整形外科 常勤 鈴木 貴士

耳鼻咽喉科 非常勤 杉本 裕彦

皮膚科 非常勤 川野 貴代

退職 9/30 付

整形外科 常勤 柳澤 正彦

皮膚科 常勤 佐藤 典子

耳鼻咽喉科 非常勤 北野 佑果

※皮膚科 佐藤医師は10/1～非常勤となります。

紹介患者数について

8月分のご紹介患者数は468件 (FAX 132件、一般336件) でした。多くの患者さんをご紹介いただき、誠にありがとうございました。

FAX 受診申込書、専用封筒などのお取り寄せは地域医療連携室までご連絡下さい。郵送またはお届けいたします。

電話 042-(558)-0321 (代)

ニュースの内容についてのお問い合わせ

せは^{こかど}小門・神田 までお願いします。